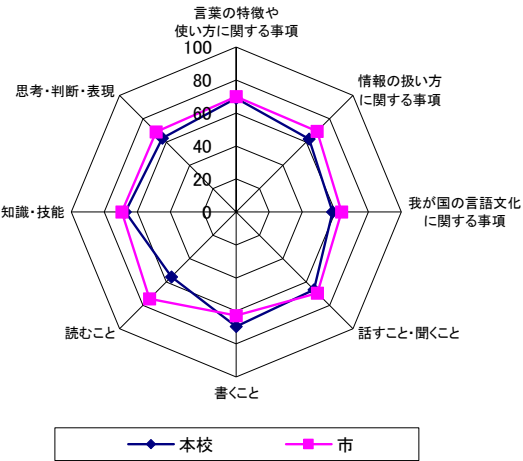


宇都宮市立篠井小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	68.9	69.9	72.3
	情報の扱いに関する事項	62.5	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	58.3	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	66.7	69.5	71.5
	書くこと	69.4	62.8	67.1
	読むこと	55.6	74.4	73.7
観点別	知識・技能	67.3	69.4	71.9
	思考・判断・表現	63.3	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

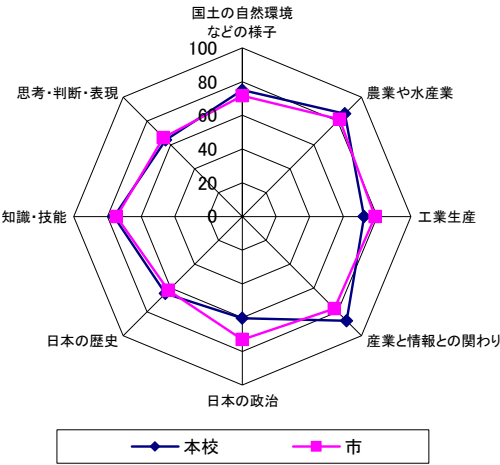
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	●市の平均正答率と比べ1ポイント下回っている。 ●漢字の読みに関しては、1つの設問の他は、どの設問でも市の平均正答率を下回っている。 ○言葉の学習では、三文字の熟語の成り立ちについての設問の正答率が市の平均を7.6ポイント上回っている。 ○段落の役割を理解して2段構成で文章を書く記述式の設問の正答率が91.7%と市の平均正答率より26.5ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、学年の漢字を繰り返し練習し確実に習得させるとともに、下の学年の漢字についても、自主学習などを利用して復習させていく。 ・段落の意味を学年の発達段階に応じて丁寧に指導していく。また、作文指導の学習時間を増やし、表記上の決まりを身に付けた上で書くことに慣れさせる。
情報の扱い方 に関する事項	●市の平均正答率と比べ6.7ポイント下回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を書く設問の正答率は58.3%であり、市の正答率を3.7ポイント上回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、66.7%の正答率で市の平均正答率を17.1ポイント下回った。	・文章の中から必要な情報を正しく選択するために、読解力を向上させる。そのために、学年の発達段階ごとに、身に付けるべき「読むこと」の領域のねらいをはっきりさせて指導する。
我が国の言語文化 に関する事項	●和語、漢語、外来語について理解する問題では、58.3%の正答率で市の平均正答率を5.5ポイント下回っている。	・授業の中で、言語文化に対する関心を高めるような話題を提供したり、自主学習で言語に日本語や日本文化についての見識を高める内容を奨励したりする。
話すこと・聞くこと	●66.7%の正答率で市の平均正答率を2.8ポイント下回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える記述式の問題では、正答率が83.3%で市の平均正答率を17.2ポイント上回っている。	・今後も学校課題である「つながりのある授業」の実践を目指していく。学年の発達段階に応じた話合いの学習形態を取り入れ、主体的対話的で深い学びのある授業を展開していく。学び合いを効果的に取り入れ、相手の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、根拠を明らかにして自分の意見を伝える体験を積んできた成果である。
書くこと	○69.4%の正答率で市の平均正答率を6.6ポイント上回っている。 ●目的や意図に応じた、書き表し方の工夫を選ぶ問題では、市の平均正答率と比べ26.7ポイント下回っている。	・学年ごとの「書くこと」の領域の内容を丁寧に指導していく。 ・読書指導の充実を図り、読解力を向上させることで、問題に向き合える力を付けさせる。また、語彙を増やすことで表現力を高めるとともに、個別指導にも力を入れていく。
読むこと	●55.6%の正答率で市の平均正答率より18.8ポイント下回っている。物語、説明文共に、読み取る問題では、市の平均正答率と比べ約20ポイント下回っている。	・学年ごとの「読むこと」の領域の内容を丁寧に指導していく。 ・文章を読む時に、時間や場所、様子を表すキーワードを見つけて読み進めていくよう指導していく。 ・読書活動を推進していくことで、読むことへの関心を高める。さらに、読書の幅を広げるようにいろいろな分野の本を紹介していく。 ・読書ノートを作り、内容を要約したり、作者の意図をまとめたりする経験を積ませる。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.0	71.6	67.5
	農業や水産業	86.1	81.5	82.1
	工業生産	72.2	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	87.5	77.2	68.2
	日本の政治	60.4	73.1	77.9
	日本の歴史	64.6	62.0	65.8
観点別	知識・技能	76.1	74.6	74.5
	思考・判断・表現	64.2	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

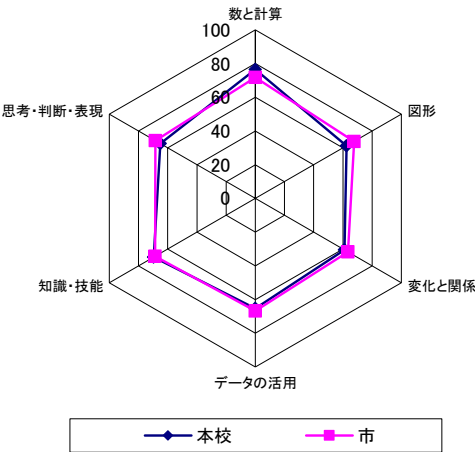
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○「日本の周辺の海洋名」や「防波堤」、「森林の働き」についての理解では、本校の正答率が91.7%であり、市の正答率を上回った。 ○この領域の5問中、4問が市の正答率を上回った。 ●「日本の地形の理解をもとに、地図を読み取る問題」は市の正答率を12.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な選択問題の正答率が高く、記述問題においても得点できている児童が多い。日々の基礎的な学習の積み重ねだと捉えられる。今後も基礎的な学習を継続するとともに、児童が主体的に応用的な問題に取り組む機会を取り入れる。
農業や水産業	○「カントリーエレベーターの働き」を問う問題では、校内正答率が100%であり、市の正答率を上回った。 ○「都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、適切な地図を判断する問題」については、83.3%であり、市の正答率を上回った。 ●「地産地消の取組」について答える問題では、校内正答率75.0%と市の正答率を7.5ポイント下回った。	・地産地消については、言葉の意味を理解することに加え、実際にどんな取り組みができるのか、生活に生かせる実践的な具体例を考える活動を授業に取り入れていく。
工業生産	○日本の輸出品についての資料読み取り問題では、市の正答率が81.5%に対し、本校の正答率が91.7%と10.2ポイント上回った。 ●「自動車組み立ての作業工程」を正しく並べ替える問題では、市の正答率を9.3ポイント下回った。	・一つ一つの作業工程を丁寧に説明したり、流れを捉えられるようにしたりする必要がある。また、自動車より児童に身近な製品のことを考えたり、実際の工場見学に行ったりするなど体験的な学習を取り入れる。
産業と情報との関わり	○「様々なメディアの特徴を捉えて、当てはまるメディアの名称を答える」問題は本校正答率100%であった。 ○「架空の児童が調べた資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて判断する」問題は、本校正答率75.0%と、市の正答率を12.2ポイント上回った。 ○どの問題でも市の正答率を上回る結果となった。日頃からメディアに触れる機会が多く、児童にとっても親しみやすい単元であったと考えられる。社会科に限らず、「友達がどう考えているかを考える」時間を授業内に確保してきた成果が発揮され、児童の思考力が深まっていると考えられる。	・写真や映像資料を活用したり、関係を表や図でまとめたりし、生活における様々なメディアの特徴を捉えられるようにする。また、児童にとって身近なテーマや、社会問題となっていることを例に挙げて、自分と関わりのあることとして主体的に課題に取り組むことができるようにする。
日本の政治	●「日本国憲法」「基本的人権の尊重」「三権分立」について答える問題は、本校の正答率は66.7%で、市の正答率を9.9ポイント下回った。	・問題の選択肢がやや難解であったり、会話を読み取ることと内容を推測したりする問題形式であり、それぞれの領域で必要不可欠なキーワードを改めて重点的におさえる必要がある。 ・他の領域の傾向からもわかるように、児童にとって身近に感じさせることが内容理解の深まりに繋がる。法令制定の背景を考えたり、現代の社会と比べたりする活動を授業に取り入れる。
日本の歴史	○「歴史年表の読み取り」や「15～17世紀の出来事の流れを判断する」問題では、本校正答率91.7%と高く、市の正答率を上回った。大きな歴史の流れや時代の移り変わりの全体像、出来事の順序などを捉えることができている。 ●「豊臣秀吉の政策に共通する目的を答える」問題では、市の正答率を24.6ポイント下回った。	・今後はそれぞれの出来事について焦点化して考えたり、同時期に起こった出来事の因果関係や共通点・相違点などについても捉えられるようにし、内容の定着を図っていく。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.5	71.8	76.2
	図形	62.5	67.7	67.8
	変化と関係	61.1	63.4	62.7
	データの活用	65.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	69.6	68.6	70.7
	思考・判断・表現	65.0	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

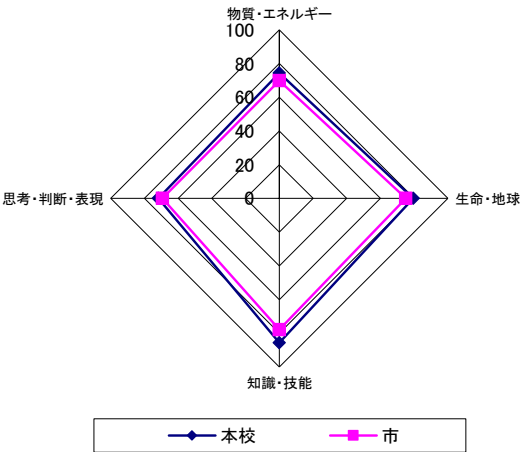
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は76.5%で市の正答率を4.7ポイント上回った。 ○純小数同士の乗法の計算の正答率は、市の正答率を25.2ポイント上回っている。 ●図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をしているの正答率は、市の正答率を16.6ポイント下回っている。	・基礎的な計算能力を定着させるために、引き続き全校体制で復習の取組を継続していく。 ・小数の計算に苦手意識をもつ児童が多いため、今後も計算練習を継続するとともに、問題を図に表したり、図から式を立てたりできるよう指導する。
図形	●平均正答率は62.5%で市の正答率を5.5ポイント下回った。 ○合同な三角形を作図する問題の正答率は91.7%で、市の正答率を6.5ポイント上回っている。 ●半円と四分の一の円を組み合わせでできる図形の面積の求め方を説明する問題では、市の正答率を26.4ポイント下回っている。	・円の面積を求める公式の活用を図るために、複数の円や円と多角形を組み合わせた図形の面積を求める様々な問題にふれさせ、解き方の順番を明確に示すなどして丁寧に指導する。 ・コンパスや分度器、定規の正しい使い方を繰り返し指導し、合同な三角形を作図するための技能を高めていく。
変化と関係	●平均正答率は61.1%で市の正答率をやや下回った。 ○図から面積と数の割合を求め、どこが最も混んでいるかを考察する問題正答率は91.7%で、市の正答率を11.7ポイント上回っている。 ●時速を分速や秒速に直す問題の正答率は、41.7%で市の正答率を18.1ポイント下回っている。	・単位量あたりの大きさの問題では、正しく立式するために、基準量と比較量を文章中から正確に読み取れるように指導する。 ・時速、分速、秒速の相互変換ができるように、60倍、3600倍の関係、60分の1、3600分の1の関係が成り立っている場合を数直線などから正しく理解できるように指導する。
データの活用	●平均正答率は65.3%で市の正答率をやや下回った。 ○欲しいデータを求めるために必要な正しい情報を選ぶ問題の正答率は75%で、市の正答率を12.7ポイント上回っている。 ●値に0がある連続量の平均を求める問題の正答率は58.3%で、市の正答率を22ポイント下回っている。	・児童にとってなじみの薄いドットプロットやヒストグラム、複合表などが示していることを正しく読み取れるように練習問題に多く取り組ませ、全体的な特徴と部分的な特徴をそれぞれ掴めるように指導する。 ・代表値(平均値、中央値、最頻値)の意味と求め方を正しく理解させ、様々な視点からデータを読み取れるようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.4	69.9	67.8
	生命・地球	79.4	75.1	73.7
観点別	知識・技能	85.6	77.8	78.4
	思考・判断・表現	71.8	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は74.4%で市の正答率よりも4.5ポイント上回った。 ●電流のはたらきに関しては、電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べるために、どの実験を比較すればよいかを指摘できる正答率は、市の正答率よりも6.8ポイント下回っている。	・文章を読み比べたり、図を見比べて答えを導き出したりするような問題にも取り組みさせ発展的な課題も充実させていく。 ・基本的な用語などは確実に覚えていけるよう、継続的に指導する。
生命・地球	○平均正答率は79.4%で市の正答率よりも4.3ポイント上回った。 ●植物の発芽と成長に関しては、予想が正しかった場合に得られる結果を推測する正答率は、市の正答率よりも29.9ポイント下回っている。	・文章を正しく読み取りながら、実験結果を推測できるように視聴覚教材等を有効活用していく。 ・基本的な用語などは確実に覚えていけるよう、継続的に指導する。

宇都宮市立篠井小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
だれもが「できた！」「わかった！」を実感できる、つながりのある授業の実践	・児童の主体的な学びを引きおこす課題設定の工夫 ・宇都宮モデルを意識した授業の展開 ・つながりのある対話的な学びの場の設定	・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は100%から70%であった。学年が進むにつれ肯定回答率が下がる傾向がある。 ・「学校の授業がどの程度分かりますか」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は、3・6年生で100%であり、他の学年でも80%以上である。また、「次の教科などの学習は、好きですか」の設問では、下学年においては、どの教科でも市の肯定割合をほぼ上回っている。上学年では、国語、算数で50%程度であり、市の肯定割合を下回っている。 ・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は100%から77.8%であった。どの学年でも、市の肯定割合をほぼ上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○だれもが「できた！」「わかった！」「深まった！」を実感できる、つながりのある授業の実践

「学校の授業がどの程度分かりますか」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は、どの学年でも80%以上であり、個に応じた指導を充実させ、基礎・基本の定着に取り組んできた結果であると考え。次年度も継続して、指導体制を工夫したり、AIドリルや復習プリントを活用したりし、個に応じた指導を推進していく。また、話し合いに進んで参加したり、話し合いから、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるという設問に、肯定的回答をした児童の割合が高い。次年度も、対話的な学習に意欲的に取り組み、深い学びにつながるような指導を充実させる。